

マイタイムライン作成地区別ガイドライン
〈原西部地区〉

原西部地区について

沼川が横断し、高橋川と合流する原西部地区は低地が多く、地区の大半が浸水想定区域となっています。地区の東部では新中川の影響も想定されていますが、沼川・高橋川の影響が最も大きく、令和3年7月豪雨では、沼川・高橋川の氾濫を起点として床上浸水が多く発生し、甚大な被害をもたらしました。

1 該当する単位自治会

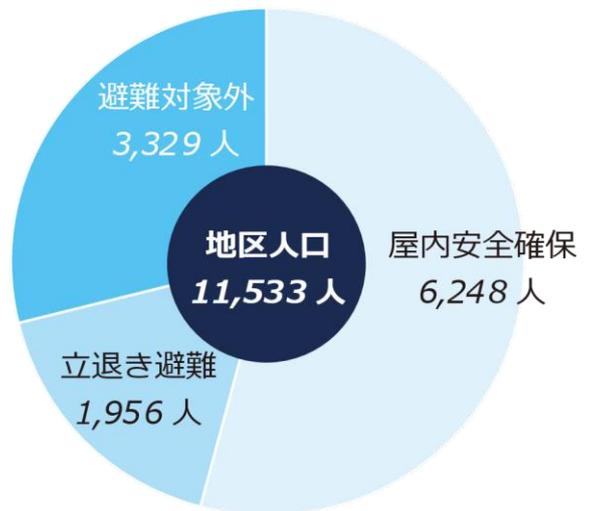
西町一区、西町二区、六軒町、原新田、一本松、桃里、植田、ニュータウン原、県営原町中団地、市営原町中団地、原町中

2 地区内で洪水浸水を及ぼす河川

沼川、高橋川、新中川

3 地区周辺の雨量

- 令和元年10月台風19号
165.0mm (10/11~12日)
- 令和3年7月豪雨
382.0mm (7/1~3日)
- 令和3年9月豪雨
105.0mm (9/1~2日)



図：地区の避難人口の割合

4 地区の避難人口と指定緊急避難場所

地区内の避難人口は、立退き避難が6,248人、屋内安全確保が1,956人、合計8,204人となっています。原西部地区の人口は11,533人のため、約7割の方が立ち退き避難又は屋内安全確保が必要な状況です。

指定緊急避難場所として原小学校、原中学校を指定しています。

市が避難情報を発令したときは原小学校、原中学校を避難場所として開設します。

原小学校は洪水浸水想定区域内に立地するため、必要に応じて上層階への避難が必要です。

避難場所	延べ床面積 (㎡)	※収容人数 (人)
原小学校	5,514	1,169
原中学校	9,206	1,952

※収容人数は感染症等に配慮しない形での目安

5 洪水地区タイムライン例

地区を横断する沼川と、沼川と合流する高橋川の影響により、床上浸水被害が頻発しています。

特に沼川・高橋川の川沿いは河岸浸食による家屋倒壊が想定されています。

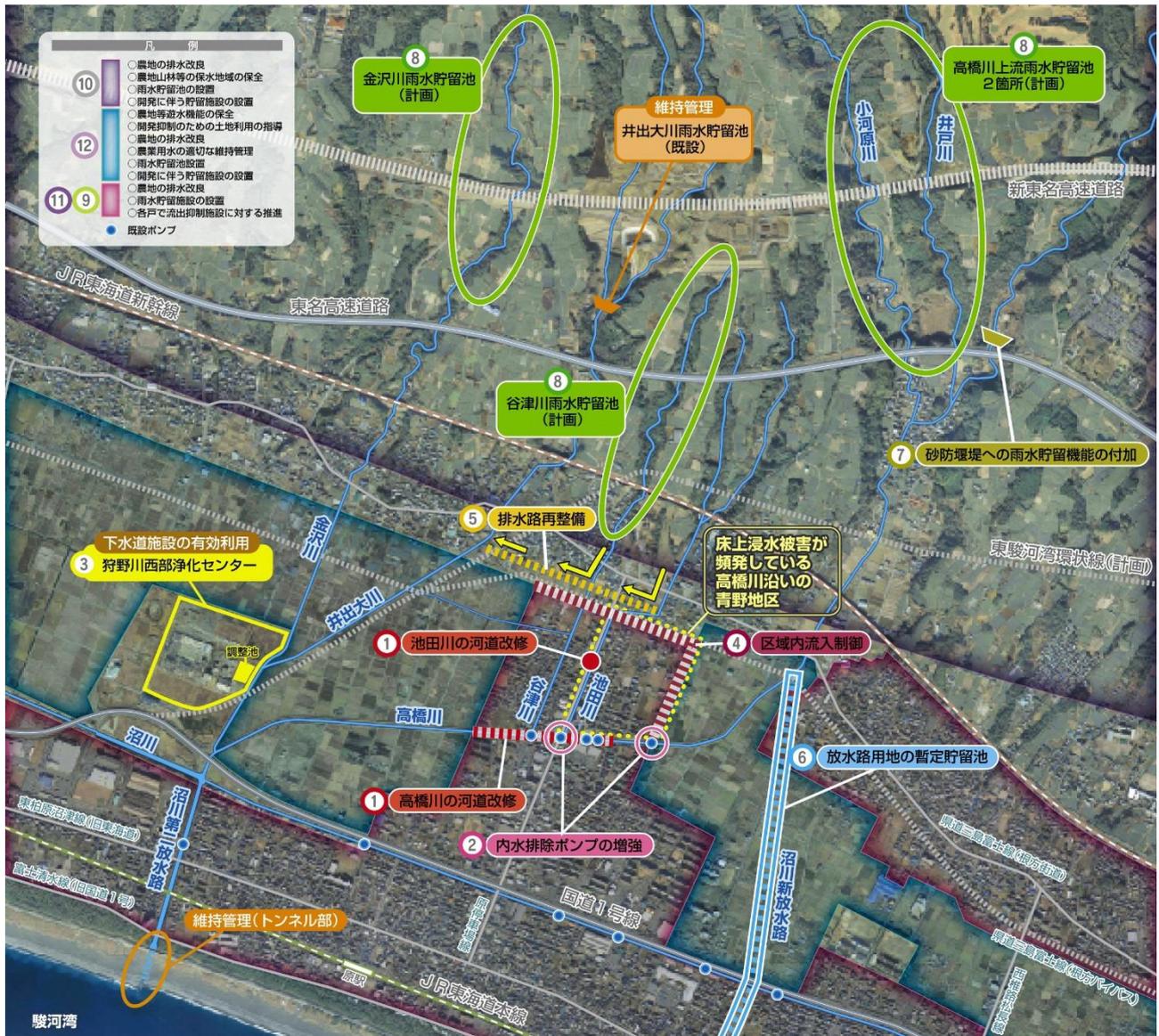
洪水による浸水深は3～5mで、浸水継続時間は概ね1～3日となっています（想定最大規模）。

沼川・高橋川の水位状況は静岡県サイポスレーダーやテレビのdボタン等から最新の情報を確認できます。

河川名称	警戒	沼川	高橋川	新中川	対応
観測所	レベル	今沢橋	青野	丸子橋	
堤防高	5相当	－	4.2m	4.1m	自宅が浸水していないならば最新の注意を払って立退き避難 避難行動要支援者がいる場合は2階以上など自宅の高い場所に避難 河川の付近に居住していてすでに付近が浸水している場合は立ち退き避難はしない
氾濫危険水位	4相当	－	3.0m	2.73m	避難要支援者は避難開始 健全者も立退き避難または屋内安全確保により全員が安全な場所へ避難する
避難判断水位	3相当	－	2.2m	1.8m	連合自治会長は単位自治会長に、必要に応じ公民館や自治会館を避難所に開設するよう依頼 避難行動要支援者は避難を検討 市の避難所が開設された場合は必要に応じ民生委員や防災指導員等と協力し避難行動要支援者に声掛け又は同行避難
氾濫注意水位		2.0m	1.8m	1.8m	情報ツールによる大雨や気象情報等の状況確認開始 非常持ち出し品の準備
水防回待機水位	2相当	1.5m	1.5m	1.8m	避難行動要支援者は立ち退き避難の準備、2階以上に住居がある人は2階以上へ移動 民生委員や防災指導員と協力し避難行動要支援者への声掛け

6 沼川（高橋川）流域豪雨災害アクションプランより

平成 20 年に策定された沼川（高橋川）流域豪雨災害アクションプランに基づき、雨水貯留地や沼川新放水路の整備に向けた取り組みが進められています。



7 地区別カルテ

沼川は氾濫危険水位、避難判断水位の設定がありませんが、沼川は大雨で増水して水防団待機水位に到達してから急激に増水するため、低地帯の多い原西部地区は浸水被害が発生しやすい状況となっています。沼川と合流する高橋川が避難判断水位に到達した後、15分で避難所に到達できるか検証したところ、避難場所まで距離があることもあり、健常者でも避難を完了できない箇所があります。（409箇所の結節点のうち177箇所が避難困難の赤色を示しています。）健常者の方はもちろん、避難行動要支援者の方は避難判断水位に到達する前に避難を開始する必要があります。

避難の際は隣接する原東部地区、浮島地区も洪水浸水想定区域であるため、地区内の避難所だけでなく、安全で離れた地区の知人・友人宅を検討する必要があります。

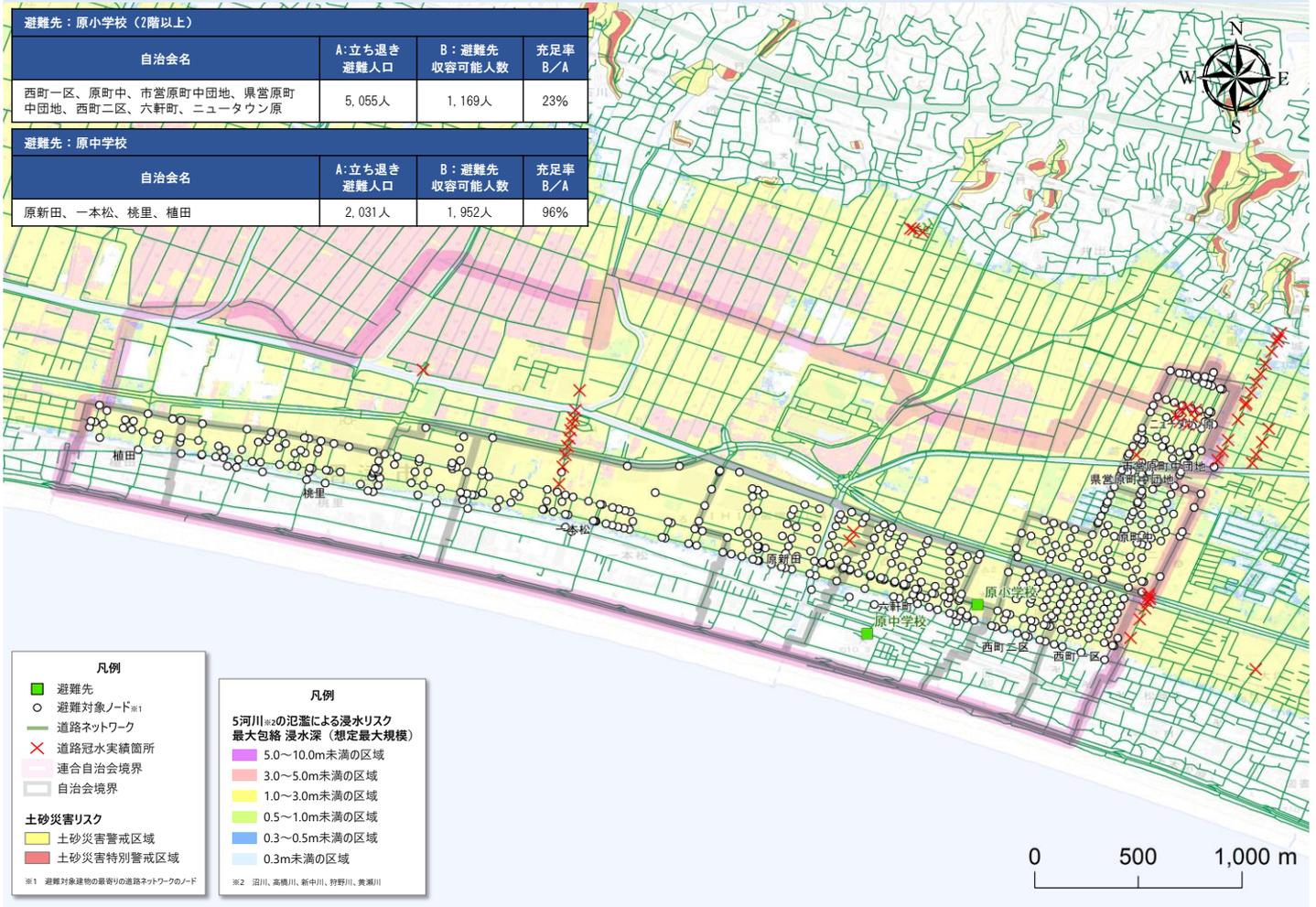
原西部地区 地区別洪水避難カルテ 基本情報

避難先：原小学校（2階以上）

自治会名	A:立ち退き 避難人口	B:避難先 収容可能人数	充足率 B/A
西町一区、原町中、市営原町中団地、県営原町中団地、西町二区、六軒町、ニュータウン原	5,055人	1,169人	23%

避難先：原中学校

自治会名	A:立ち退き 避難人口	B:避難先 収容可能人数	充足率 B/A
原新田、一本松、桃里、榎田	2,031人	1,952人	96%



凡例

- 避難先
- 避難対象ノード※1
- 道路ネットワーク
- 道路冠水実績箇所
- 連合自治会境界
- 自治会境界

土砂災害リスク

- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

※1 避難対象建物の最寄りの道路ネットワークのノード

凡例

5河川※2の氾濫による浸水リスク
最大包絡 浸水深（想定最大規模）

- 5.0～10.0m未満の区域
- 3.0～5.0m未満の区域
- 1.0～3.0m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 0.3～0.5m未満の区域
- 0.3m未満の区域

※2 沼川、高橋川、新中川、狩野川、貴瀬川

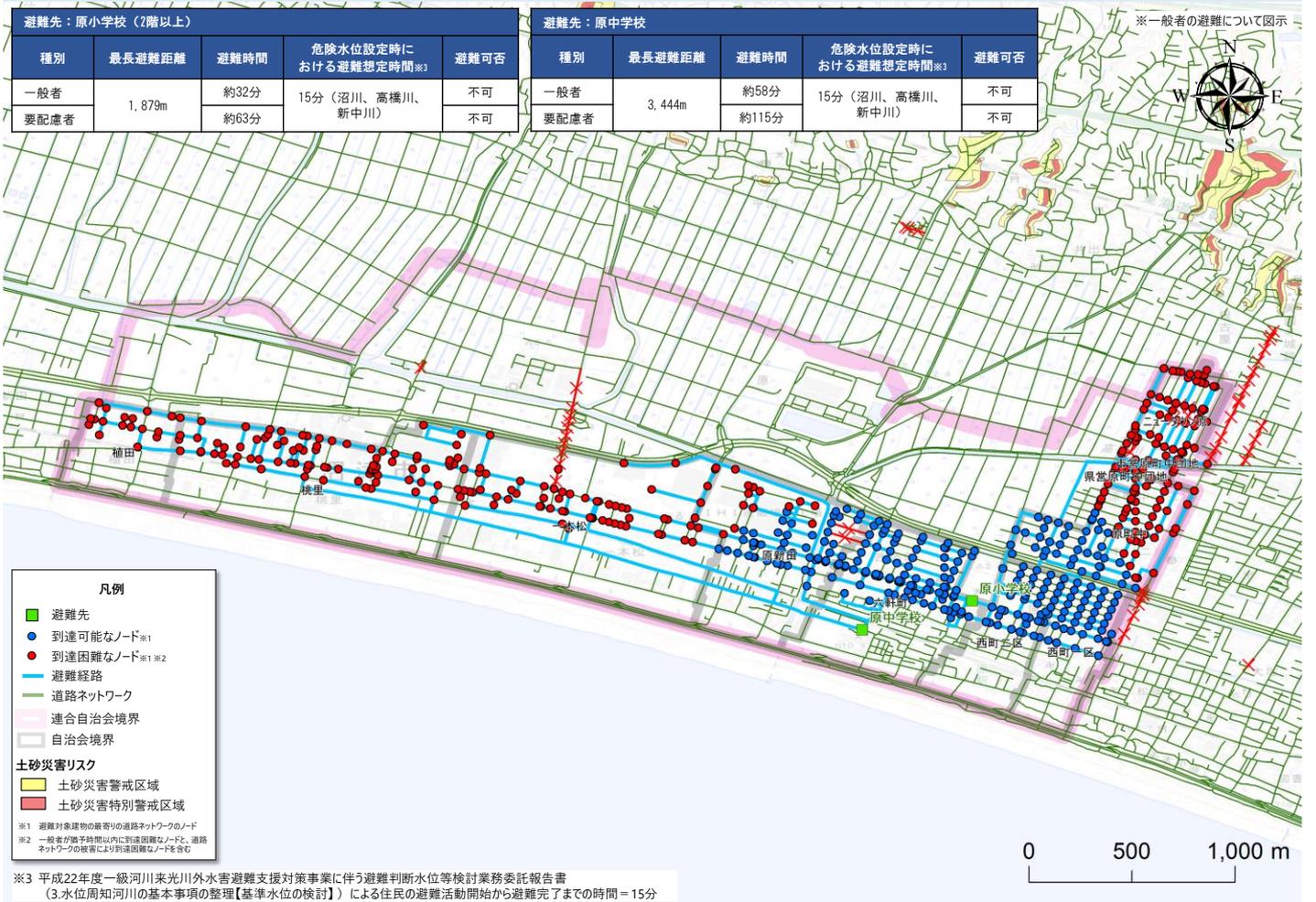
原西部地区 地区別洪水避難カルテ 住民避難シミュレーション結果(冠水実績箇所:通行不可)

避難先：原小学校（2階以上）

種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間※3	避難可否
一般者	1,879m	約32分	15分（沼川、高橋川、新中川）	不可
要配慮者		約63分		不可

避難先：原中学校

種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間※3	避難可否
一般者	3,444m	約58分	15分（沼川、高橋川、新中川）	不可
要配慮者		約115分		不可



凡例

- 避難先
- 到達可能なノード※1
- 到達困難なノード※1 ※2
- 避難経路
- 道路ネットワーク
- 連合自治会境界
- 自治会境界

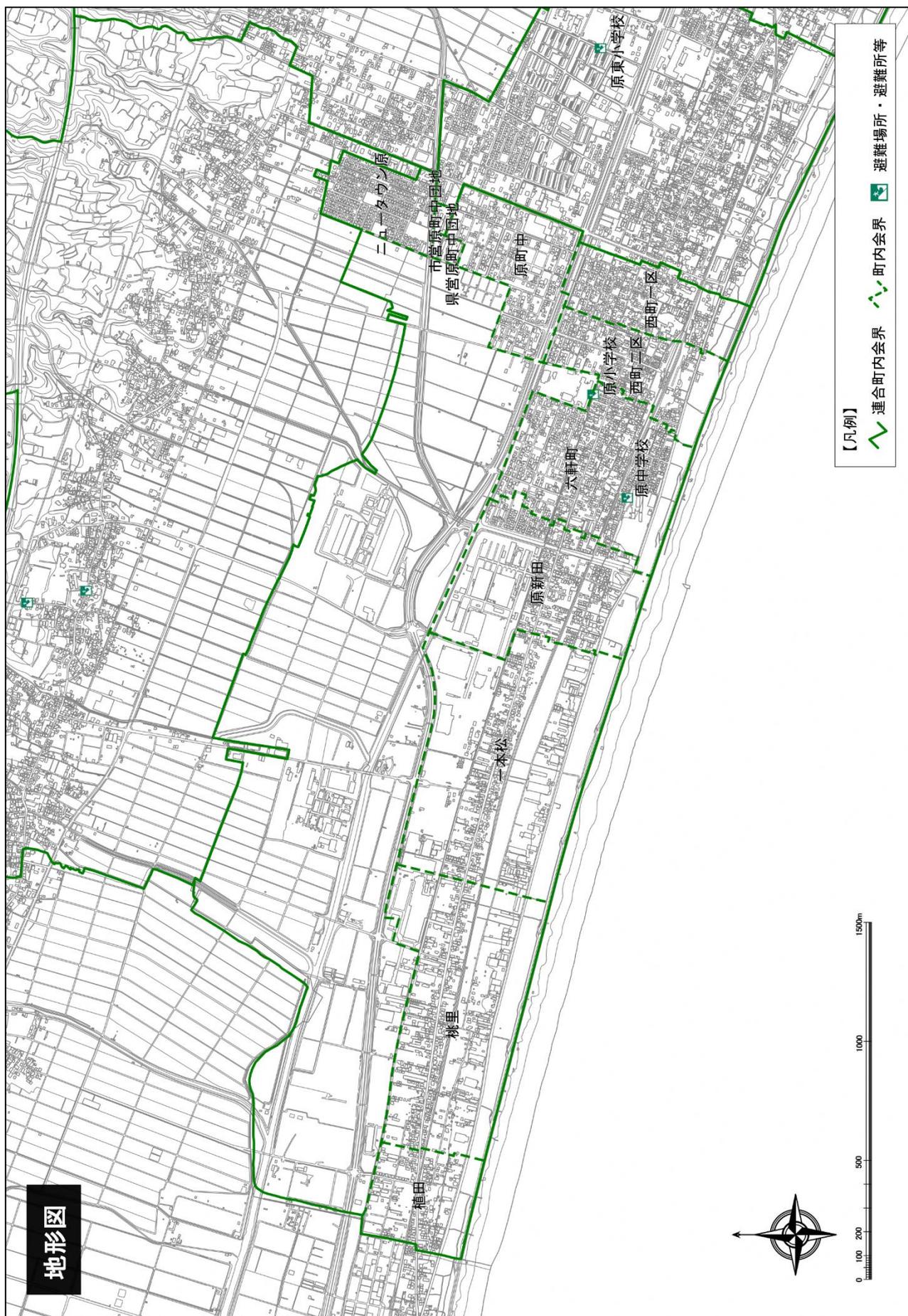
土砂災害リスク

- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

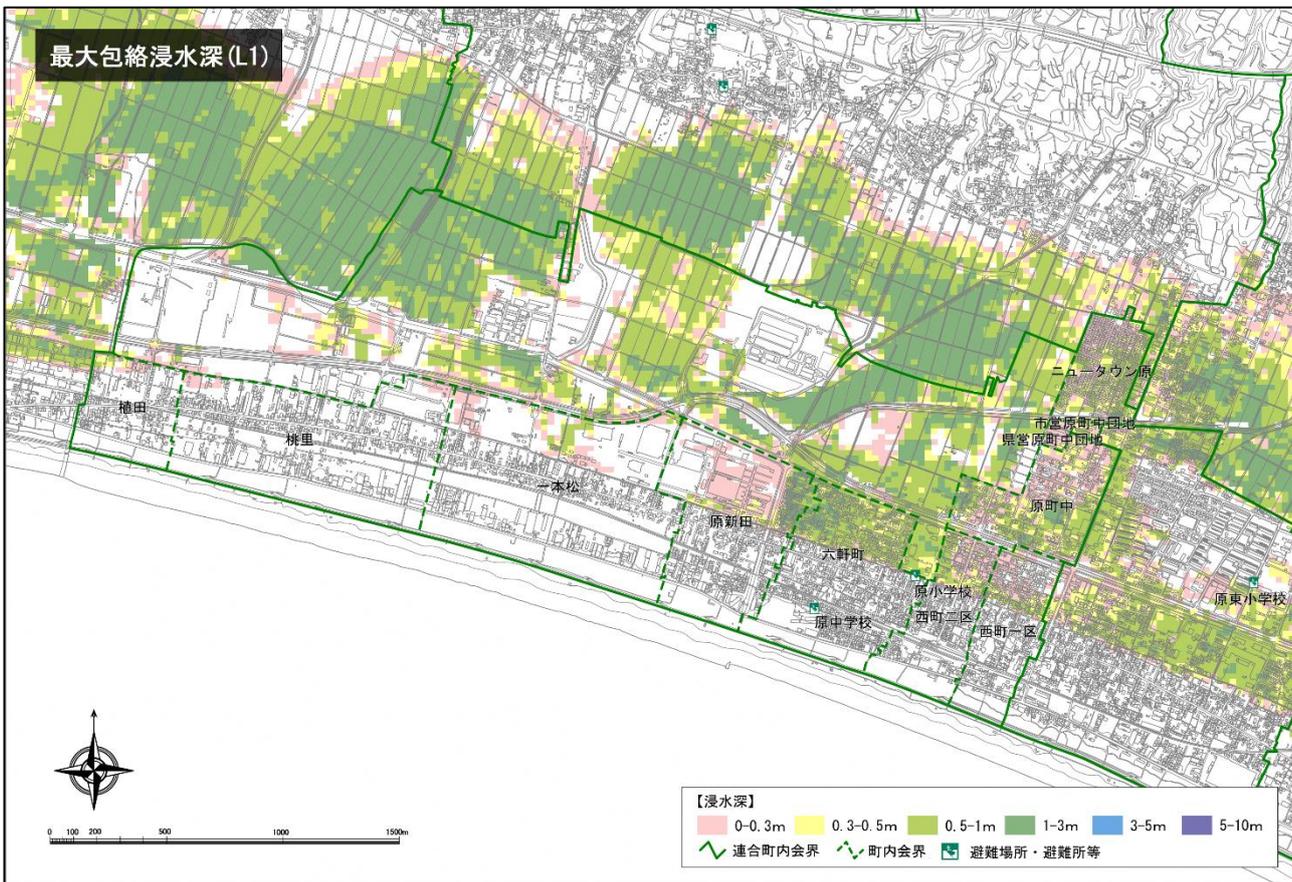
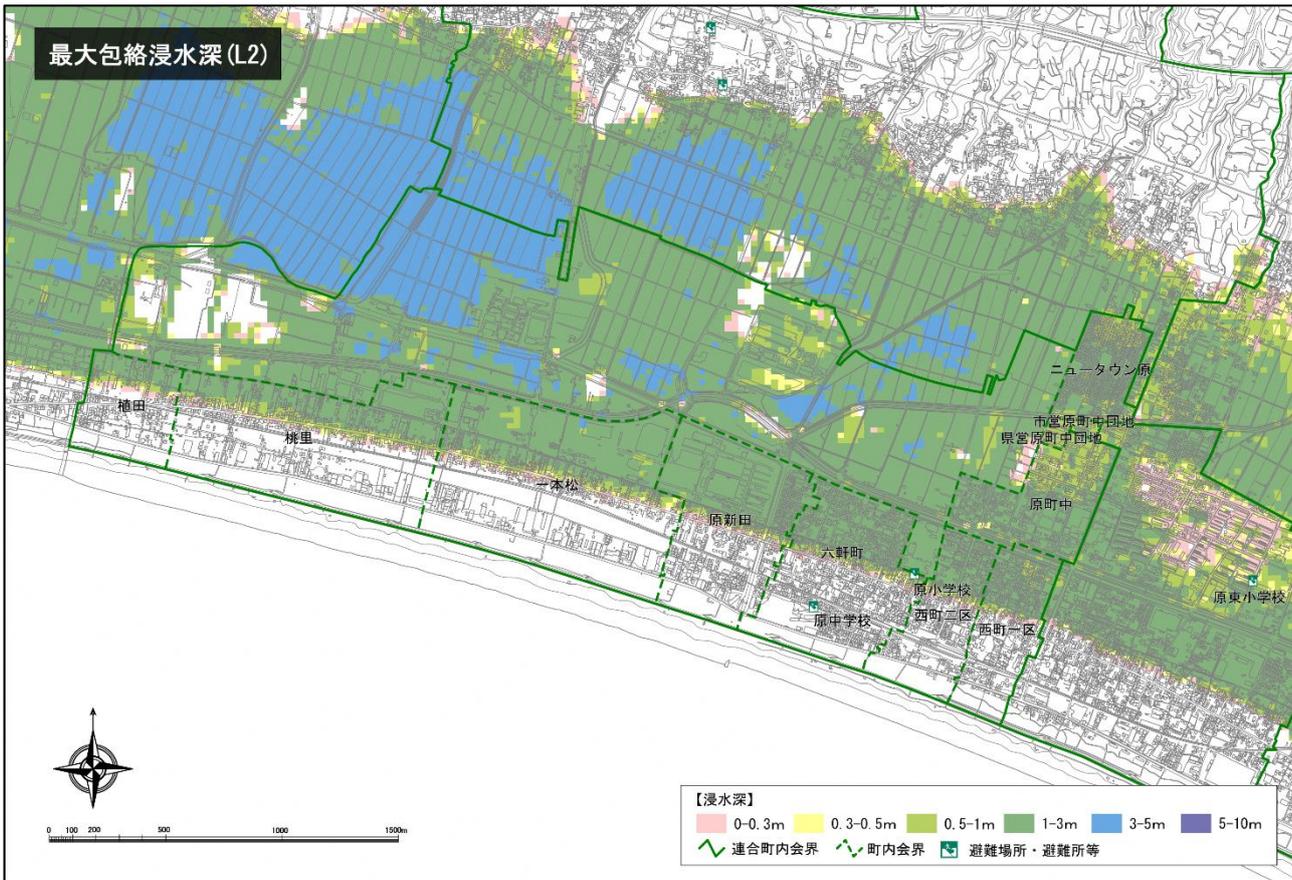
※1 避難対象建物の最寄りの道路ネットワークのノード
 ※2 一般者が発着時間以内に到達困難なノードと、道路ネットワークの断断により到達困難なノードを含む

※3 平成22年度一級河川東光川外水害避難支援対策事業に伴う避難判断水位等検討業務委託報告書（3.水位周知河川の基本事項の整理【基準水位の検討】）による住民の避難活動開始から避難完了までの時間 = 15分

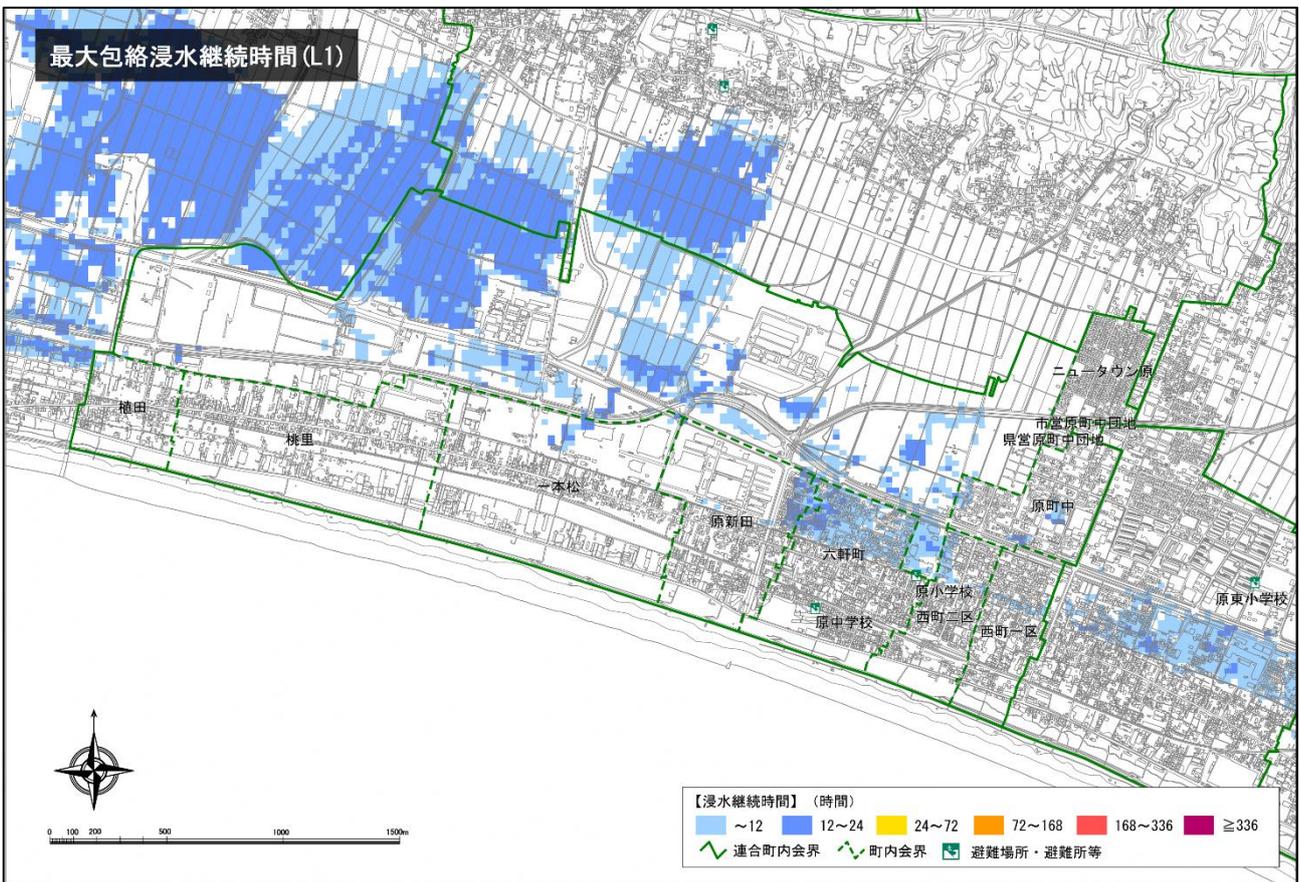
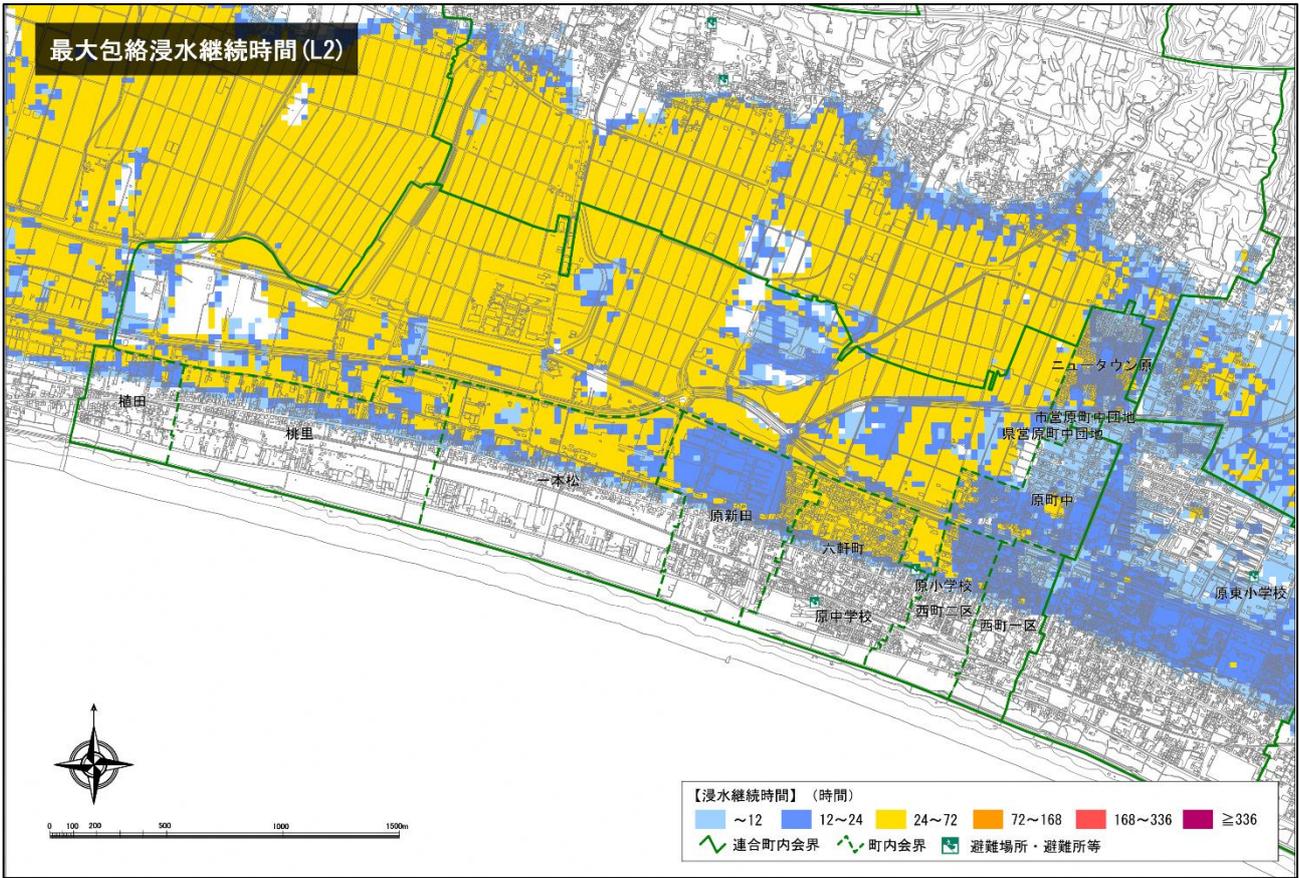
地形図で自宅の位置を確認してみよう



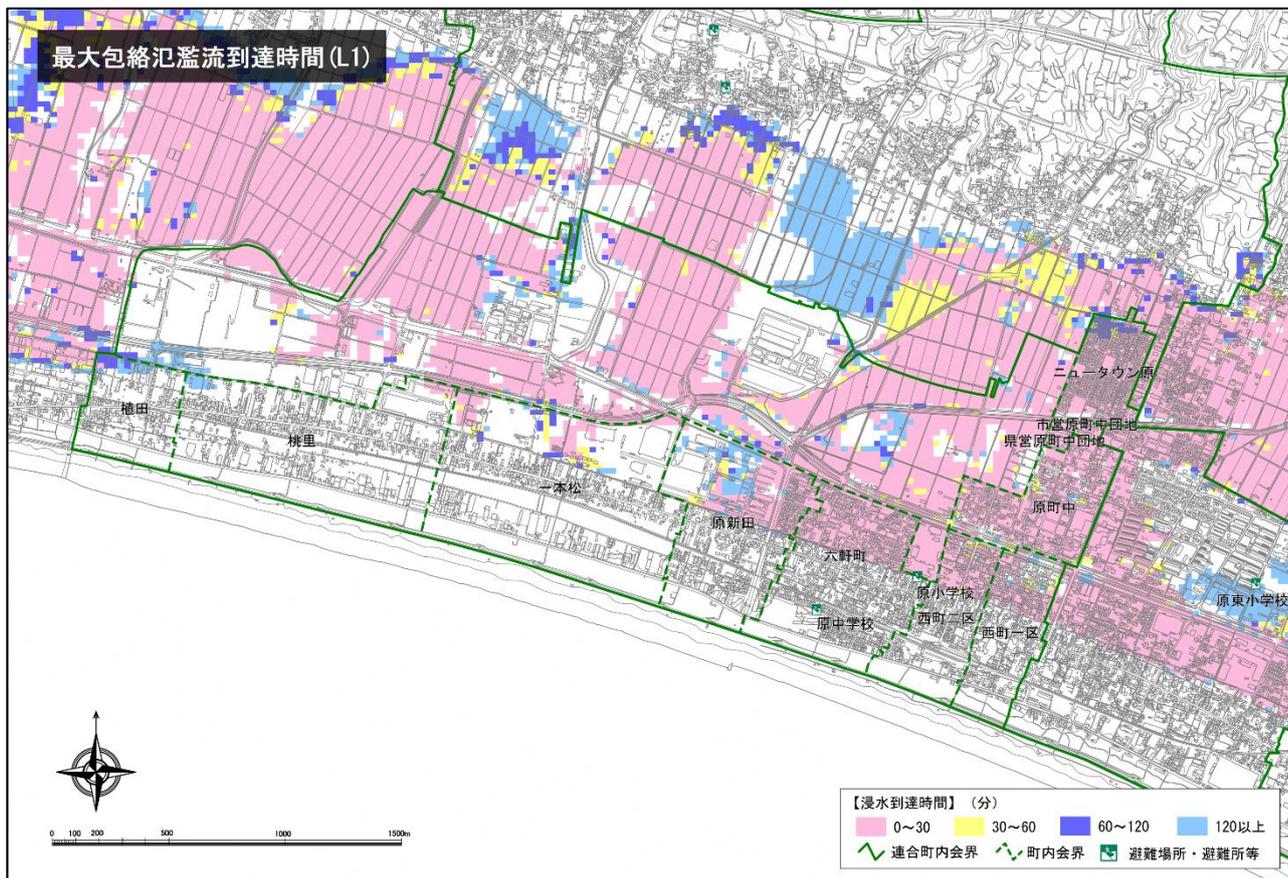
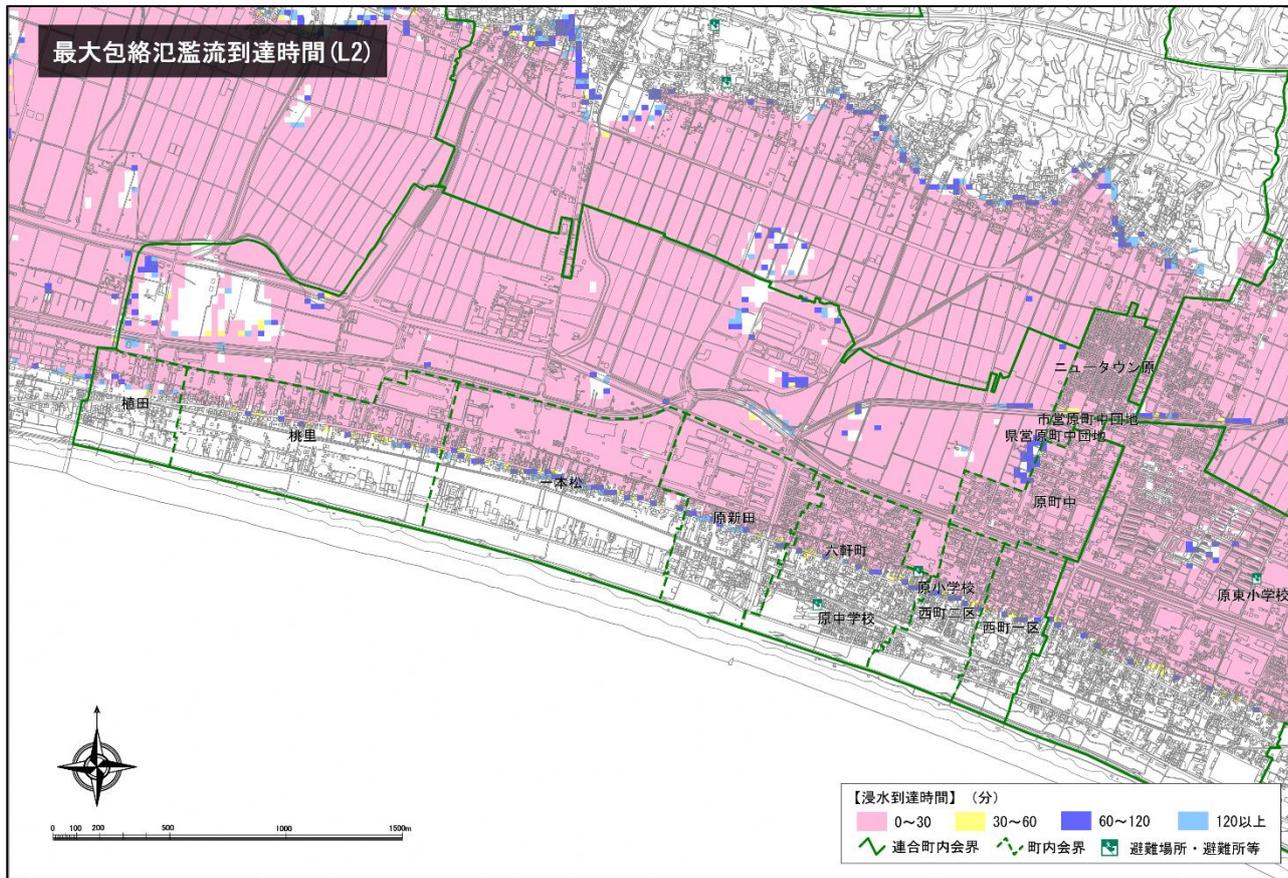
浸水範囲と浸水深を確認してみよう



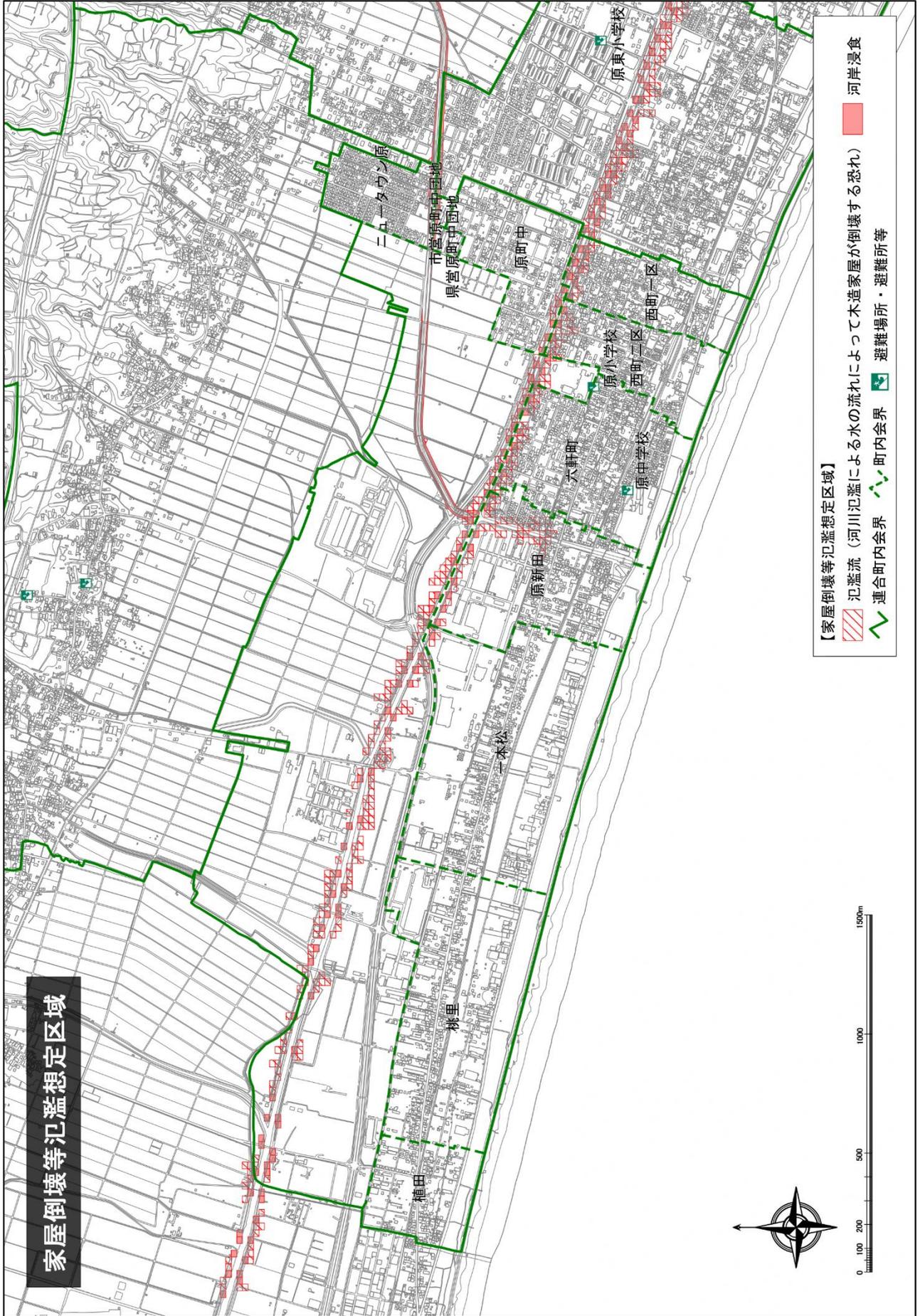
浸水継続時間を確認してみよう



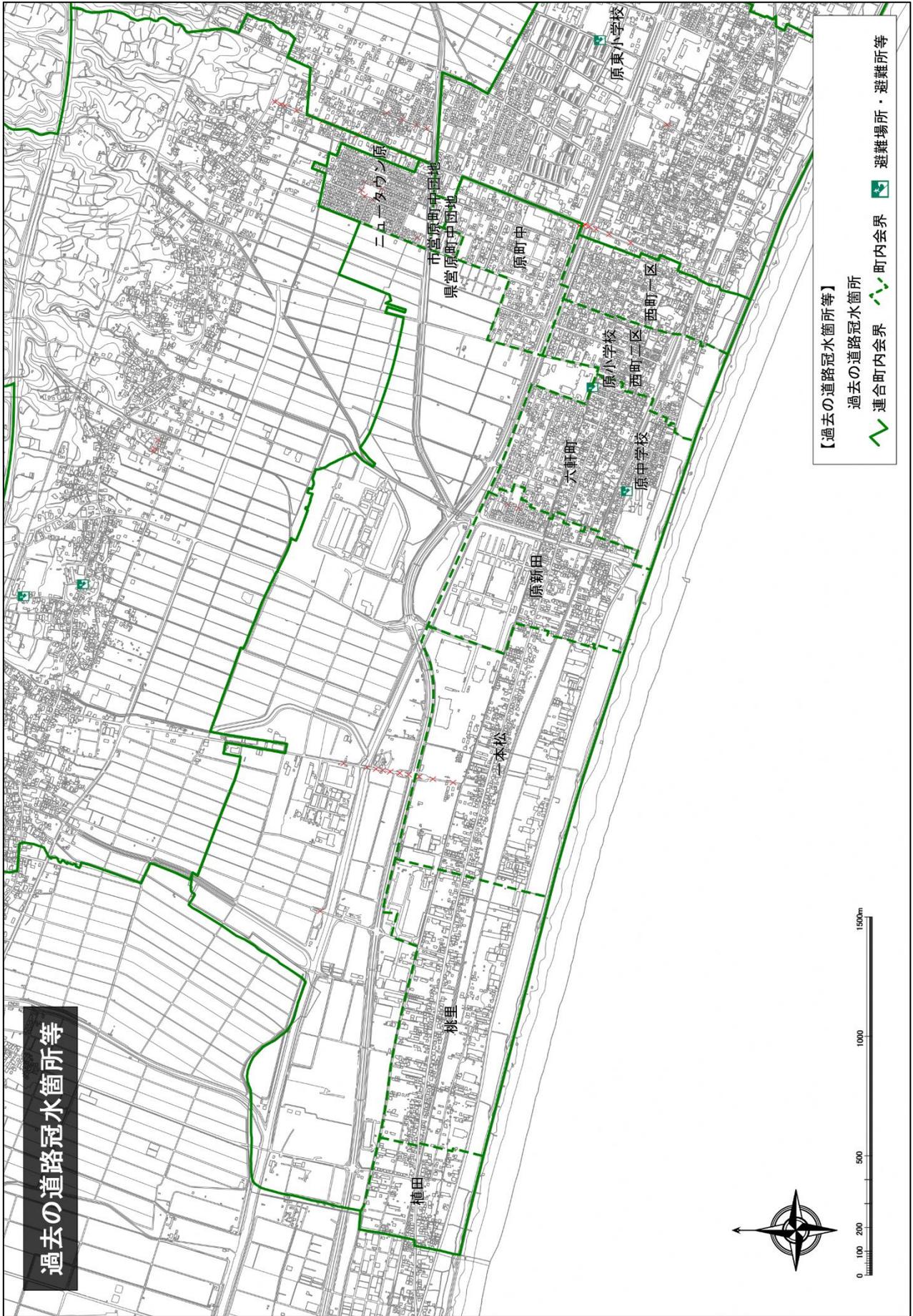
氾濫流到達時間を確認してみよう



家屋倒壊等氾濫想定区域を確認してみよう



過去の浸水箇所を確認してみよう



土砂災害ハザードマップを確認してみよう

